

事業所支援プログラム

(事業所名： すまいる)

項目 (5領域)	ねらい	支援目標 (具体的な到達目標)	支援内容 (内容・支援の提供上のポイント・5領域との関連性等)	具体的なプログラム
「健康・生活」	<ul style="list-style-type: none"> 健康状態の維持 改善生活のリズムや生活習慣の形成 基本的な生活スキルの獲得 	①健康状態の把握	健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。 その際、意思表示が困難である子どもの障害の特性及び発達過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。	来所時、毎回体温測定や視診・口頭での質問により、健康状態を確認する。送迎時に保護者からの児の様子について 普段と変化がある場合には、詳しく聞き取りをし、心身の状態を把握しておく。
		②健康の増進	睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。 また、健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるよう、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持、 自具等に関する支援を行う。さらに、病気の予防や安全への配慮を行う。	睡眠、食事などの大切さを絵本を用いて知らせたり、どうして大切なのかをみんなで話し合い考えていく。 ままごと遊びを通じて、野菜の名前を覚えたり、スプーン、箸などの使い方を遊びの中で経験していく。 虫歯予防ディには、絵本を通して歯磨きの大切さを知る。
		③リハビリテーションの実施	日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれの子どもに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。	作業療法士の作成したプログラムに基づき、SSTプログラムを中心としたリハビリテーションを行う。
		④基本的な生活スキルの獲得	身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。	来所時の荷物の整理や上着をきちんとたたむ、靴下を左右組むなどが出来るようになる。
		⑤構造化等により生活環境を整える	生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。 また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。	入室後の一連の動作がスムーズに自ら行うことが出来るように、絵カードや表を提示する。
「運動・感覚」	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢と運動・動作の向上 姿勢と運動・動作の補助手段の活用 保有する感覚の総合的な活用 	①姿勢と運動・動作の基本的技能の向上	日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化などに関する支援内容を 立案し、実践していく。	うんどう遊び (体を大きく動かす運動) を主に、ご自宅でも行えるうんどうを家族へお伝えし、体の柔軟性や筋力の強化を図る。
		②姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用	姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合があれば、様々な補助用具等の補助手段を活用して支援する。	クッションを用いて姿勢保持の補助を行ったり、不器用さがある場合は、スプーンや箸の形体を変更する。
		③身体の移動能力の向上	自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のために、運動に関する支援プログラムを実施していく。	サーキットトレーニングによる体の土台を育む遊びに加え、屋内だけでなく、生活に必要な屋外での活動 (屋外散策) を行う。
		④保有する感覚の活用	子どもの発達段階及び特性に配慮した、視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。	視覚・聴覚を活用したゲームやクイズの展開。触覚や固有覚を活用した制作。
		⑤感覚の補助及び代行手段の活用	保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。	生活カードやスケジュール表など視覚的に理解しやすいものを活用する。
		⑥感覚の特性 (感覚の過敏や鈍麻) への対応	感覚や認知の特性 (感覚の過敏や鈍麻) を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の提案及び支援を行う。	余分な物や音を取り除き、集中しやすい環境づくりを行う。
「認知・行動」	<ul style="list-style-type: none"> 認知の発達と行動の習得 空間・時間・数等の概念形成の習得 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得 	①感覚や認知の活用	視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促すために、制作活動や身体遊び等を取り入れながら、支援を行う。	様々な道具を使う事で、道具の用途や適切な使い方を学び、日常生活への汎化を図る。
		②知覚から行動への認知過程の発達	環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。	遊びの難易度を上げながら、困った時どうすればよいかの発信や手段を学ぶ。
		③認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。	粘土遊びや砂遊びを通して、五感十二覚を刺激する。
		④数量、大小、色等の習得	子どもの発達段階に対応した数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための具体的な働きかけなどの支援を行う。	お絵描きやブロック遊びを通して、数の概念・色の概念等の習得を図る。
		⑤認知の偏りへの対応	認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう環境調整や支援者の関わり方の指導や調整を行っていく。また、保護者に対しても 個々の特性に関する情報を伝え、こだわりや偏食等に対する家庭での具体的な支援を提案していく。	ままごと遊びや協力あそびを通して、他者との関わり方、人と遊ぶ楽しさを学ぶ。 発達上の視覚化や端的な指示の出し方を保護者に伝え、場面の切り替えや応じにくさに活用して頂く。
		⑥行動障害への予防及び対応	感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。	勝ち負けのある遊びや順番を決める遊びなどにおいて、約束→共感→振り返りを行う事で適切な行動の強化を図る。
「言語・コミュニケーション」	<ul style="list-style-type: none"> 言語の形成と活用 言語の受容及び表出 コミュニケーションの基礎的能力の向上 コミュニケーション手段の選択と活用空間・時間・数等の概念形成の習得 	①言語の形成と活用	具体的な事象や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。	見て聞いている環境をつくり、端的な言葉かけを聞いて行動する機会を設ける。
		②受容言語と表出言語の支援	子どもの発達段階に応じた話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う。	言葉遊びを通して、語彙力を伸ばしていく。
		③人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得	個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。	プログラムスタートの際、簡単なルール説明を手伝ってもらうことで、意思の伝達を行う。
		④指差し、身振り、サイン等の活用	子どもの発達段階に対応する、指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう環境及び関わり方の調整を実施する。	ジェスチャーゲームなどを用いて、身体表現をし自分の思いや考えを伝える活動を行う。
		⑤読み書き能力の向上のための支援	発達障害の子どもなど、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。	特性に応じて、文字カードや絵カード・迷路・模倣書きなどの運筆に取り組んでいく。
		⑥コミュニケーション機器の活用	各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。	伝言ゲームや早口言葉を用いたゲームの活動を行う。
		⑦手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用	手話、点字、音声、文字、触覚、平易な表現等による多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。	感情を表す絵カードや行動を表す絵カードなどを用いて言葉での表出の出来にくい所を補う。
「人間性関係・社会性」	<ul style="list-style-type: none"> 他者との関わり (人間関係) の形成 自己の理解と行動の調整 仲間づくりと集団への参加 	①アタッチメント (愛着行動) の形成	人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。	子どもが怖さや不安感を抱いた時、その気持ちに寄り添い落ち着かせていき心の安心基地になるようにする。
		②模倣行動の支援	遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。	踊りやダンス、体操、忍者ごっこなどの遊びを通じて社会性や対人関係を伸ばしていく。
		③感覚運動遊びから象徴遊びへの支援	感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。	見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊びなどの経験ができるプログラムを取り入れていく。
		④一人遊びから協同遊びへの支援	周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同 遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。	グループで協力して成り立つゲームや関わりを増やす活動を行う。
		⑤自己の理解とコントロールのための支援	大人を介して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。	興奮や混乱時には、児の気持ちを代弁したり、好きな活動で耐性があるときに少しストレスを与え乗り越える経験 が出来るようにしていく。
		⑥集団への参加への支援	集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。	プログラムスタート時に流れのスケジュールを視覚的に示し、見通しをもって不安なく参加できるようにしていく。